

# 信貴山

平成9年6月1日

第24号

題字 日本芸術院会員 村上三島先生

## 寅年記念大法会

### 毘沙門灌頂のおすすすめ

今から約千四百年の昔、この

山で聖徳太子さまは初めて毘沙門  
天王を感得され、仏敵、物部守屋  
討伐の祈願をされました。その時  
が丁度寅の年、寅の日、寅の刻で  
あったと伝えられています。

毘沙門天王より戦勝の秘法を授  
けられた聖徳太子さまは、用明天  
皇二年七月三日、みごと守屋討伐  
に成功され、日本に仏教が栄える

礎を築かれました。

そこで太子は当山を、真に信ず  
べき貴ぶべき山、信貴山と名づけ、  
自ら毘沙門天王を刻み、日本で最  
初に尊天をお祀りになりました。

以来、信貴山では、寅の年を御  
縁年とし、寅の日・時を御縁日・  
時と定めて、特別にあがめており  
ます。その寅年をいよいよ平成十  
年に迎えます。特に寅が三つ重な  
ると、太子が尊天より大利益をい  
ただかれた故事にならない「三寅の  
福」と申しまして、最も多くの福  
が授かると言われていました。

平成十年の二月十二日と、二十  
四日は、まさしく寅の年、寅の月、  
寅の日というこの三寅にあたりま  
すので、当山では開祖聖徳太子さ  
まがお祀りされました最も有り難  
い奥秘仏本尊を十二年ぶりに御開  
扉申し上げ、毘沙門灌頂という最  
も尊い法会を厳修いたします。

(三月十一日と二月二十五日まで  
の十五日間)

灌頂(かんじょう)とは、イン  
ドのサンスクリット語「アビシエ

「カ」の訳で字の如く「いただき  
にそそぐ」という意味であり、尊  
天さまの智慧と慈悲を表わす香水  
を頂に頂戴し、煩惱を一切洗い流  
して、自分が本来仏さまと同じで  
あることを自覚する法儀です。

宗祖弘法大師は中国の青竜寺で、  
恵果和尚より、この有り難い灌頂  
をお受けになり、真言宗の奥義を  
授かり日本に伝えられました。

当山の毘沙門灌頂は、このよう  
な格式と伝統を受けつぐもので、  
尊天さまの智慧を頂上に頂くこと  
により、尊天さまと真実の親子に  
して頂ける、この上もない尊い法  
儀でございます。

毘沙門天王の永遠の御力と生命  
を頂戴して、心の底から湧き出る  
法悦歓喜の世界を体得することが  
出来ます。

現在、毘沙門灌頂が行われてい  
るのは当山だけであり、しかも十  
二年毎の寅の年、寅の月、寅の日  
のみであります。

この毘沙門灌頂は、どなたでも  
ご参加出来ますので、是非この勝  
縁にご参加されますようお願い致  
します。

合掌

(詳細は千手院寺務所まで、お  
問い合わせください。)

